

---

# ハロゲンヒーターと兄妹

巻号

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

ハロゲンヒーターと兄妹

### 【Nコード】

N2174P

### 【作者名】

巻号

### 【あらすじ】

「なんで冬なのに扇風機なんか？」とは妹の言葉。  
「だからハロゲンヒーターだってば」とは兄の言葉。

そんな兄妹のお話。

「わーれーわーれーは、うちゅーじんだー」

「扇風機じゃないからそれ」

「違うの？」

ハロゲンヒーターが格納されている箱の前で、僕の妹はちよこんと正座していた。

箱が開き、ハロゲンヒーター本体が外に出ているならまだしも、ダンボール箱に向かって宇宙人ごっこをする妹はそういまい。

「……違うよ。むしろ何でハロゲンヒーターを知らないんだよ」

「だって中学生だもん」

「僕が中学生の頃は皆知ってたけどね」

「時代は変わるんだよ、兄ちゃん」

「たった二年でハロゲンヒーターの認知度が変わるとは驚きだよ」

溜息を吐いて、僕は立ち上がった。ハロゲンヒーターを箱から取り出すためだ。

「っていうかさ、何で冬なのに扇風機なんか買ってきたの？」

「だからハロゲンヒーターだってば。冷房器具じゃないからこれ」

「扇風機じゃんそのフォルム」

「新しい言葉を使いたくなる気持ちは解らなくもないけど、ともかくこれは扇風機じゃない……よつと」

ダンボール  
梱包箱の口を塞いでいたガムテープを剥がすと、ビニールにくるまれた”それ”が、僕の目に飛び込んできた。

ハロゲンヒーター。

電気をエネルギー源として稼動する、安全かつ簡便、そしてじんわりと部屋を暖めてくれる素敵な暖房器具である。

僕の部屋にはコタツが無い。

冬になると、毎年一階の居間にはコタツが展開されるのだが、流石に子供部屋にまで一々置くような金は我が家には皆無である。

という訳で僕はこの冬に向けて資金を貯め、遂にこの冬。ハロゲンヒーターを手にしたのであった。

ダンボール箱からビニールに包まれたハロゲンヒーターを取り出し、そしてそのビニールも剥ぐ。剥ぎ取ったビニール袋をその辺に放った。するとすぐ、妹がそれを手に取りわしゃわしゃと弄び始めた。僕の妹は猫だったのか。ケーブルを束ねる針金を解いて、プラグをコンセントに差し込む。そして僕はスイッチに手を伸ばして。

「スイッチ、オン」

かちっ。

機械の中から配線が切り替わる音がした。というか僕はあまり機械に詳しくないので、本当に配線が切り替わった音かどうかは果てしなく不明に近い。

「「おお……………」」

段々と橙色の光を帯びていくヒーター！

少しの眩しささえ感じさせるその橙光に、僕ら兄妹は感嘆の声を漏らした。

「暖かい扇風機……………時代は変わったね兄ちゃん！」

「だーから扇風機じゃないって……………まあ、いいか」

妹に説明しなおすのも面倒になり、僕はハロゲンヒーターの前に胡坐を掻く。

「暖かいなあ……うん。これで夜でも勉強できる」

「夜はいつもゲームしてるんじゃないの？」

「いや、まあ。そうなんだけどね。母さんとか父さんには勉強するから買ったなんて言っちゃったし。せめて少しくらいはその気にならないと」

「ふーん……そーいうもん？」

「そーいうもんだよ」

僕は適当に答えて、足やら手やらを温める。

作業を 正直に言うとかゲームをしていると、手足が冷えて仕方が無い。僕が冷え性なんだろうかと考えたが、別にそんな事は無かった。

「これを買うのが後一日でも遅れていたら、僕の命は無かったかもね」

「それは無かったかもね」

「うん。まあ、そうだね」

「兄ちゃんは一々ボケがつまらないよね」

「……そうですか」

「つまらない上に言い回しが面倒だよね」

「………そうですか」

温まってきたかと思ったら、妹から冷たいご意見が飛んできた。割と鋭く。しかし僕のボケがつまらない上に言い回しが遠回りなのは否定できず、要するに我が妹君の仰る通りな訳で。

「でもまあ、」

こてん、というような感じで、僕の妹は寄りかかってきた。

「暖房代わりにはなるかもねー」

「……………重い」

「レディに対して重いとは何事かッ」

「だッ……………はいはい悪うございましたー……………」

僕が率直な感想を述べると、氷のように冷たい指摘よりも更に鋭いチヨップが僕の脳天にクリーンヒットしたのだった。

「慰謝料として扇風機はこの冬の間借りて行きます」

「猫じゃなく鬼だったんだね僕の妹は。っていうか扇風機じゃないっつば」

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n2174p/>

---

ハロゲンヒーターと兄妹

2010年11月30日00時02分発行